

## 「桜梅桃李（おうばいとうり）」

校長 安藤 徹



早いもので、2024年も2月に突入しました。『1月往ぬる2月逃げる3月去る』の慣用句から、よく『1月に行く、2月は逃げる、3月は去る』と言われてきましたが、これは正月から3月までは行事や何かと動くことが多く、あっという間に過ぎてしまうことを表現しているものです。

1月の年始は誰にとってもうれしい反面、あわただしく過ぎていき、さらに2月は他の月に比べ、日数も少ないため「逃げるように2月が終わってしまう」と昔から言われてきました。しかし、今年こそは時の流れにただ身をまかせるだけでなく自分なりの目標や計画をしっかりと立てて『逃げる2月』をしっかりと捕まえて、じっくり通り組んでみたいものです。



さて、寒さはまだまだこれからが本番という時期ではありますが、所々で梅も花をつけ始め、少しずつ春の足音も聞こえてくる季節にもなりました。

「桜梅桃李（おうばいとうり）」・皆さんはこんな言葉を聞いたことがあるでしょうか？



「さくら」「うめ」「もも」「すもも」の4種類の花をただ並べただけのことばではありますが、昔から伝えられてきたことばです。これらの花はみなどれもきれいで、それぞれ独自の花を咲かせます。そして、この「桜梅桃李」ということばにはそれぞれの花の美しさを認めて、その良さを生かしましょうという意味が込められているのです。

やがて、これらの花は美しい実もつけ、どれも私たちを楽しませてくれることでは同じですが、ご存じの通り花びらの形も咲き方も実の味もそれぞれみんな違います。

その点では、私たち人間も全く同じだと思います。同じ人など一人としていないのです。仮にふたごの兄弟姉妹で、お互いにいろいろな点でとても似ていたとしてもすべてが同じというわけではありません。人にはそれぞれいいところがあり、同じでないからいいのだと思います。昔から「十人十色」「蓼（たで）食う虫も好き好き」ということわざもあります。人にはみな違いがあり、色でいえばみんな違う色を持っていて、「蓼（たで）」というとてもにがい植物が好きな虫もいるということを表しているものです。

皆さんの中にもきっと他の人と違うことが「いけないこと」とか許せないことだと思ってしまう人もいます。しかし、そう思うこと自体、悪いこととかいけないことではありませんが、現代そしてこれからの時代の多様性（ダイバーシティ）をみんなで大切にしていくためには、まず自分の良さや価値観は認めながら、自分の周囲の人の違う考えや良さも認め、大切にすることが何よりも重要になってくるのではないかと思います。

人種や身体の特徴、感じ方や考え方、そして得意、不得意なこと・・・これらがみな違うからこそ、私たちはお互いに補い合ったり、支えあったりすることができ、新しいアイデアを生み出しながら、結果的に成長することができるのだと信じています。

令和6年2月1日